

地区の環境や景観を守る

景観を乱す粗大ゴミは
許しません



地区の環境は私たちが守ります

不法投棄に悩まされ、平成25年から不法投棄監視サポーターを編成。平成29年6月にはこのサポーターを母体に「下平窪環境守る会」が結成されました。平成30年時点の会員は138人。散歩や買い物のついでに目を光らせ、捨てられた粗大ゴミを発見すると通報。また、清掃活動やポイ捨て防止の啓発活動も展開し、これまで4人が市環境美化功労者の表彰を受けています。

同地区の自然を守る団体では「下平窪山林愛護会」も活躍しています。石森山への桜の植樹や、堤防沿いの草刈りも行っています。メンバーは約45名。子ども会と一緒に公園の草刈りをすることもあり、子ども、保護者世代、祖父母世代の3世代が交流する機会にもなっています。



江戸時代から受け継がれる
「渡戸の獅子舞」

伝統芸能の継承で 絆を強める

四百年の
伝統が
つなぐ
地域の絆

この地区に江戸時代から受け継がれ、県の重要無形文化財にもなっている舞が「渡戸の獅子舞」。住民は約400年にわたり結束して継承しています。

平成30年9月16日には、渡戸公民館を会場に、地区内外から集まった約100人を前に力強い舞が披露されました。獅子役は、笛の音色に合わせ、太鼓をたたきながらダイナミックに足を振り上げ、頭を振り回しながら舞います。奉納を終えた三獅子は会場を移し、夜まで踊りました。

住民は協力し合ってこの伝統芸能を継承し、絆を強めています。本番1カ月前に始まる稽古は毎晩のように行われ、練習後は杯を交わして親交を深めます。有馬義夫区長は、地区を一つにする意味でも「この獅子舞の存在は大きい」と話していました。

介護予防で健康長生き

運動を通して
はぐくまれる
住民の絆



介護予防に取り組む健康講座

運動が盛んな地区ですが、近年では介護予防にも熱心な住民が増えてきました。地区のスポーツ大会では毎年優勝するほど熱心に取り組む一方、介護予防として、毎週1回は健康体操、毎月1回は健康講座を開いています。運動を通して住民同士の交流も育まれています。

平第37区は12の区で構成する飯野地区内の一区。40年以上続くという飯野地区の区対抗のイベントは、夏に球技大会、秋には運動会があります。球技大会の種目は女子がバレーボールで男子がソフトボール。バレーボールでは主に30代の約15人、ソフトボールでは10～40代の30人超が出場しているといいます。大会の前には役員が練習に顔を出して差し入れ持参で激励。住民が心を一つに

して優勝を目指し、大会後には慰労会を開いて懇親を深めています。かつては練習も活発に行われていたようで、山野辺豊区長は楽しい思い出を振り返りながら、ここで生まれた住民同士の交流が将来まで続いていくと嬉しそうに話します。

かつてスポーツイベントで親睦を深め合った仲間同士、今では仲良く介護予防にも取り組んでいます。平成28年に北白土公民館で始まった健康体操は盛況。会場が定員オーバーになり、翌年には別の会場でも開くようになりました。健康講座も月1回開催され、医師や薬剤師、地域包括支援センターの職員から講話を受けて健康づくりに励んでいます。



児童の郷土愛がつづられた冊子

郷土愛を育む

住民の
思いが詰まった
一冊の本

「関田地区を愛してほしい」と平成30年の春、冊子「はばたけ 新しい関田」を発行しました。関田の海や街並みをとらえた迫力ある空撮や児童の郷土愛をつづった作文が編集され、住民に地区の魅力を伝えています。制作費や編集面での問題は知恵と人脈で解決し、郷土愛あふれる一冊をつくりました。

なるべくお金は掛けないようにと考える馬上昌幸会長は、区内で土木工事に当たる業者に、地域貢献活動として印刷に係る経費を協力してもらい、表紙に使用した迫力ある地区の空撮は、人脈を駆使して市内の工業校に協力を依頼し、ドローンでの撮影を実現することができました。また、作文については、地元の勿来第二小学校に依頼し、生徒達に関田地区への思いや夢をつづってもらいました。完成した冊子は、1600部印刷して学区内の全戸に配布しました。